

被害者等支援・事故防止の効果検証の 手法について

令和4年6月13日
自動車局

前回までの検討会における効果検証に係る主なご意見

- ✓ 新たに自動車ユーザーに負担を求めるならば、その用途について無駄はないか、効果検証を行い、事業の適正化を図るべき。
- ✓ 効果検証にあたっては民間保険会社やJA共済が自賠責保険（共済）の運用益を活用して実施している事業（民間運用益事業）の用途選定に際して行っている「用途選定委員会」の仕組みが参考になるのではないか。

令和4年1月「中間とりまとめ」抜粋

- ✓ 施策の「見える化」を行い、その効果検証を定期的に行うことが必須である。

参・国交委 附帯決議

- 三 今後、追加・拡充される被害者支援対策・事故防止対策として実施すべき施策については、新たな賦課金を求めることとする以上、施策決定過程の「見える化」を行い、実施内容を精査すること。特に、各施策の費用対効果等に関する事前及び事後の検証については、用途を明らかにした上で、自動車事故被害者、その家族及び遺族団体その他関係団体などの意見を踏まえ、第三者による客観的な視点で行うとともに、毎年実施すること。…

賦課金額の水準検証のための被害者等支援・事故防止対策の効果検証について

効果検証の実施方法案【概略】

- 社会復帰促進等事業におけるPDCAサイクルによる効果検証をベースとする
- PDCAの「C(評価)」に際しては、民間運用益事業における財源論・必要性・効率性の3つの視点を勘案し、評価
- 評価の結果、効果の乏しい施策については、その理由を分析し、改善措置を講じる。

被害者等支援・事故防止の評価手続き

Step1 国土交通省・NASVAにおける目標設定

成果指標及び目標数値を設定

Step2 国土交通省における評価

成果指標及び目標数値をもとに、実際の到達状況に至る主な要因・プロセス等に基づき財源論・必要性・効率性の3つの視点を勘案し、評価(A～Dの4段階評価)

Step3 勘定のあり方に関する検討会における審議

国交省における評価を踏まえ、検討会における審議を実施

評価の観点

【財源論】

自動車ユーザーが支払った保険料の運用益や賦課金等を活用することが適切か。

【必要性】

被害者等の保護の増進や事故防止に資すべきものの観点から、必要性が高いものである

【効率性】

限られた財源により被害者等の保護の増進や事故防止に最大限の効果を図るべきものの観点から、効率性の高いものであるか。

被害者等支援・事故防止の評価方法

P (計画)

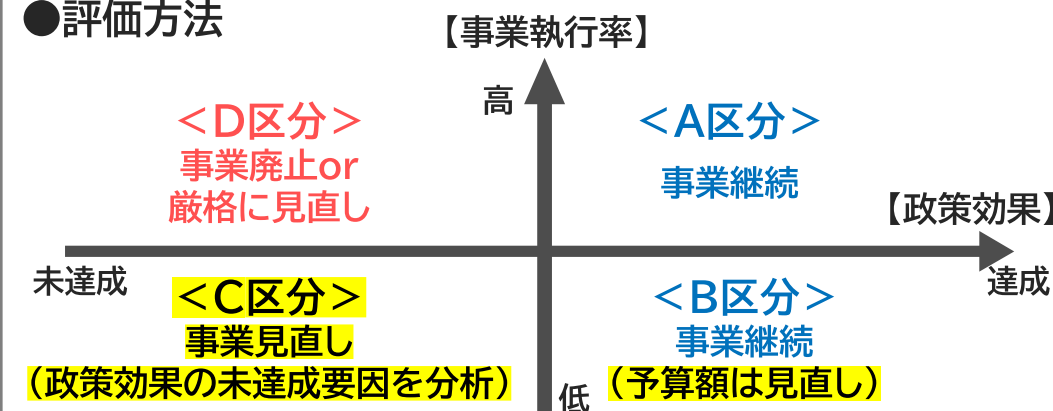
事業ごとに目標設定

・アウトカム指標(政策効果) ・アウトプット指標(事業執行率)

C (評価)

目標ごとに、A～Dの4区分で評価

●評価方法



A (改善)

- ・ 評価結果を検討会で確認
- ・ 評価結果を翌年度予算要求に反映
- ・ 賦課金額の水準の検討に活用